



福島市議会

まゆのかい

真結の会

MAYU NO KAI

尾形 武 | 鈴木 正実 | 二階堂 武文 | 斎藤 正臣 | 根本 雅昭 | 菅原 美智子

川又 康彦 | 真田 広志 | 宍戸 一照

福島駅東口地区第一種市街地再開発事業の解体工事現場を、会派で視察しました。

全16棟の解体工事は完了しており、エスタビルの屋上から全体を確認した後、

A・B街区の間(写真)と整地されたC・D街区から、現地を確認しました。

発行責任者：真田広志
 福島市五老内町3番1号
 TEL▶024-533-7613
 FAX▶024-533-7613
 URL▶https://f-mayu.jp



まゆ
 真結の会
 綱領

市民の皆様と真に心を結び、人々が生き生きと、そして心穏やかに暮らせる県都・ふくしま、県境を越えた広域圏域のリーダーにふさわしい中核市・ふくしまの実現を目指す。

市民の皆様と同じ目線に立ち様々な政策提言をするとともに、厳しい環境に取り巻かれている地方議会の在り方を見つめ直し真に開かれた、期待される議会を目指す。

MAYU NO KAI

Vol.18

福島市議会 真結の会

—令和6年4月—

MAYU NO KAI TOPICS

MAYU NO KAI TOPICS

会長あいさつ

震災の教訓を忘れず

真田 広志

未曾有の被害をもたらした東日本大震災、東京電力福島第1原発事故から、14年目を迎えました。また、本年元日には、能登半島地震が発生し、多くの尊い人命が失われました。犠牲になられた方々に改めて哀悼の意を表するとともに、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

福島県を含む一部の地域ではいまだ2万9千328人、そのうち福島市からも1千991人もの被災者がいまだ避難生活を続けております。東日本大

震災の教訓を風化させず、また、能登半島地震で浮き彫りになった課題等を防災・減災対策に生かしていくことが私たちの責務です。

私共福島市議会といたしましても、令和元年台風19号豪雨や福島県沖地震など、激甚化、頻発化する自然災害に対応すべく、議会災害対応行動マニュアルの改訂や災害時業務継続計画を策定するなど、災害対応の強化を図ってまいりました。

引き続き、さらなる災害対応も含め、山積する課題の解決を図りながら、安心・安全な福島づくりに向け、全力で取り組んでまいりますので、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

3月定例会議の報告

令和6年3月定例会議は3月1日に開会し、令和6年度福島市一般会計予算等の議案63件および報告1件が提出され、議案は原案通り可決しました。

令和5年度福島市一般会計補正予算は、歳入歳出予算、継続費等の補正で、木造住宅の耐震改修等の補助を前倒しで受け付けるほか、(仮称)市民センター整備事業費を変更するための経費が計上され、歳出予算の追加額は4千700万円余です。

その他の主な議案は、2面に掲載しています。さらに、会議の期間中、福島市条例の一部を改正する条例制定の件や人事案件等の追加議案12件が提出され、原案通り可決または同意しました。

今定例会議においては、川又康彦議員が代表質問、根本雅昭、菅原美智子、鈴木正実、宍戸一照の4議員が一般質問を行いました。主な質問と答弁は、3面に掲載しています。

予算特別委員会の報告

予算特別委員会は3月14、15、18、19、21、22日の6日間にわたり、全体会、分科会を開き、令和6年度一般会計歳入歳出予算を慎重に審査、認定しました。

一般会計は1千177億円(前年比30億円増、プラス2.6%)で、仮置場返還等推進事業費を除く予算額は、1千170億円と9年連続増となりました。特別会計は

570億5千658万円余(前年比9億円減、マイナス1.5%)、事業会計は243億6千309万円余(前年比18億円減、マイナス7.0%)で、総額1千991億1千968万円余(前年比3億円増、プラス0.1%)となりました。最終日には当会派の川又康彦議員が役職年制導入における今後の新卒者採用計画への影響等について総括質疑を行いました。

常任委員会・予算特別 委員会分科会の 報告

福島市議会には下記の4つの常任委員会があり、あらかじめ決められた担当所管について、少人数で集中的に審議を尽くすために設置された委員会です。

それぞれが所管する事務の調査、議案、請願、陳情などの審査を行っております。なお、□内は、それぞれの常任委員会における当会派の所属議員名です。◎は委員長。



福島消防署の30m級はしご車

総務常任委員会・分科会

◎鈴木正美／一階堂武文／菅原美智子

●注目の予算

【政策調整部】本市ホームページのリニューアルに着手します。スマートフォンでも見やすい閲覧性、ページ検索性の向上を図るとともに、情報発信力を強化するための予算3千37万円余を計上しました。

【消防本部】常備消防では、市民の安全安心を確保するための高規格緊急自動車1台と30m級はしご付き消防車1台を更新するため、合わせて2億8千656万円余を計上しました。今回は、医大・蓬萊団地等を抱える21年経過した福島南消防署の24m級はしご車を、年内に更新・配備するものです。さらに、消防団42分団・飯野大久保の消防ポンプ車1台等を更新します。

【会計課】昨年7月からの銀行との振込手数料交渉が合意に達し、今回、新たに振込手数料を含めた役務費として2千454万円余を計上しました。なお、直近の年間のデータ振込数は約43万件、原票からの振込数は約900件です。



新学校給食センター完成予想図

文教福祉常任委員会・分科会

◎川又康彦／穴戸一照

●注目の予算

【健康福祉部】福島市夜間急病診療所条例の一部を改正する件は、小児休日当番医を月2回福島市夜間休日急病センターで行うことにする改正です。障がいのある人もない人も共にいきいきと暮らせる福島市づくりの条例の一部を改正する件は、事業者における社会的障壁の除去等を努力義務から負担が重すぎない範囲で義務へと変更するものです。

【教育委員会】福島市新学校給食センター整備運営事業は、給食センターの建設および管理業務を民間のノウハウを活用するBTO方式を進めるもので、15年間で計104億円余の契約になります。

【こども未来部】保育園などを利用していない子どもでも一定時間まで預けることができる「こども誰でも通園支援モデル事業」に487万円余を計上します。【教育委員会】こむこむ館の屋根改修事業は1億4千500万円、冷暖房費削減も期待できます。



ゆうやけベリー (出典：福島市観光ノート)

経済民生常任委員会・分科会

◎根本雅昭／真田広志

●注目の予算

【市民文化スポーツ部】犯罪被害者を地域社会全体で支える意識の醸成を図り、誰もが安全に安心して暮らせる地域社会の実現に寄与すべく「福島市犯罪被害者等支援条例」を制定します。

【商工観光部】本市観光のシンボルである「花観光」を推進するため、ふくしま花回廊推進事業費として2千551万円余を計上し、花回廊スポットの魅力向上、受入環境整備による来訪者満足度の向上を図るとともに、花回廊スポットを軸とした市内周遊事業を展開し、経済活性化に繋がります。

【農政部】森林を適切に管理するため、5千149万円余を計上し、森林所有者に対する意向調査を実施し、経営管理権集積計画を作成するとともに、森林整備を実施します。

「ゆうやけベリー」のブランド化を推進すべく、600万円を計上し「ゆうやけベリー」に最適な栽培環境整備に必要な施設、機械の導入に対し補助します。

建設水道常任委員会・分科会

尾形武／斎藤正臣

●注目の予算

【都市政策部】路線バス等高齢者利用促進事業費として、3億1千164万円を計上しました。現在のシルバーパスポート制度は、バス停や駅から遠い地域では利用しづらく、約3割の利用率であるため、タクシードリンク導入する新たな制度が令和7年度から実施される予定です。具体的には、マイナンバーカードを活用するタクシードリンクのシステム構築や、利用上限を設定するためのバス・鉄道用のシステム改修等が行われます。さらに、周知・徹底のための専用窓口が開設されます。なお、75歳以上のマイナンバーカードの普及率は、約70%です。

【水道局】渡利浄水場施設撤去工事(敷地面積3.3万㎡)について、総額13億4千200万円の内、新年度予算6億6千697万円を計上しました。事業終了は令和8年度で、施設は解体撤去され、更地となります。跡地の利活用は、水道施設の維持管理・災害時の復旧対応拠点に使用されます。



現在の渡利浄水場

令和6年3月定例会議代表質問(抜粋)

3月7日(木)、令和6年3月定例会議の代表質問では、
当会派の川又康彦議員が代表質問をし、木幡浩市長はじめ担当所管部長等が答弁しました。



代表質問を行う川又康彦議員

福島駅東口再開発の規模の縮小化は本市にとっても大きな問題であり、市民の皆さんからも多くの意見が寄せられており、代表質問ではそのことをまず当局に質しました。

1つ目は新たな計画案の提示から決定までが拙速ではないかという点。2つ目は市が撤退する場合、再開発組合等に市から補償等が発生するのかについて。3つ目には西口も整備するという東西一体的なまちづくりを目指すのは、

財政的にも時期尚早ではないかという点です。

当局からは、縮小の方針発表後、これまで2度の検討会やタウンミーティングを重ね、様々な意見を頂いており、検討会では概ね、コンベンション機能のみの案が支持されていることを踏まえ決定案ではなく、にぎわいをつくるようコンベンション案に肉付けしていくとの答弁でした。次に、市が撤退した場合には、市が国や県に補助金返還の義務が発

生することなどが示されました。東西一体的なまちづくりについては、まずは意見を頂いている段階で、東口再開発との順序を考えながら進めていくとのことでした。

その他にはシルバーパスポートの見直し、農家の収入保険加入の実績、飯坂町財産区の水中ポンプ化などを質し、水中ポンプ化については、5本の水中ポンプ化の実施時期と源泉名など詳細な質問を総括質疑で行いました。

令和6年3月定例会議一般質問(抜粋)

今回の3月定例会議において、当会派からは根本雅昭議員、菅原美智子議員、鈴木正実議員、穴戸一照議員の4名が、当面する市政各般の課題について質問いたしました。

道路行政に関する計画について

道路敷設や補修の時期、また市民からの通報と結果等をデータベース化し可視化することについて本市の見解を伺いました。

- 本市郊外の移動手段について
- 母子保健スマート窓口について
- 医療的ケア児について
- 介護人材について
- 3Dデジタル都市計画について
- NFTとDAOについて

福島国際研究教育機構(NRE・エフレイ)との連携について

本市は今後、エフレイとどのように連携するのかが伺いました。当局からは、先月14の金融機関情報交換会においてエフレイ職員と意見交換会を行い、関連する国際会議、学会等が本市で開催されるよう支援策を充実させ、MICE誘致にも取り組んでまいりますと答弁がありました。

- 福島駅東口開発に関連して街中居住について
- 自殺防止対策について
- デジタル推進事業について

福島北風力発電事業の景観への影響について

福島市と桑折町にまたがる(仮称)福島北風力発電事業において、景観への影響と完成時予測合成写真(フォトモンタージュ)の公表の在り方を伺いました。

当局からは、フォトモンタージュでは風車が一定程度視認できますが、事業者が実行可能な範囲で影響を低減、またその公表については、市民に有効な情報をプッシュ型で公表する体制を採っていききたいと答弁がありました。

福島県への「山地におけるメガソーラー等の導入・管理に関する要請」について

「ノーモアメガソーラー宣言」を発してから半年が経過したこの時期に要請した狙いについて伺いました。

当局(市長)からは、事業者の事前説明からは予想できなかった先達山の造成状況に、許可を得るための過小な説明内容と確認したため、事業者に道義的責任を求め、本市の姿勢を他の事業者にも示したいと答弁がありました。

今回の質問の全体内容は、福島市議会ホームページ【<https://www.city.fukushima.fukushima.jp/gi-soumu/shise/shigikai/>】の「議会録画中継」でご覧いただけます。



当会派が提出した「要望書」が令和6年度の予算案に反映



令和6年度以降において、福島駅前交流・集客拠点施設整備事業や(仮称)市民センター建設などの大型事業の本格化などにより投資的経費の額が高水準で推移し、実質公債費比率も急速に跳ね上がり、令和9年度には財政調整基金及び減債基金も底をつくとの見通しが出ていることから、これまで以上に収支均衡の堅持を意識しながら健全な財政基盤の確立を図る必要があります。

次世代に過度な負担を残さず、中長期的な視点に立った財政見通しのもと、限られた行政財政資源の有効活用を図りながら健全な財政運営が行われるよう期待し、令和6年度の要望事項を取りまとめ、昨年「会派要望書」を木幡浩福島市長に提出しました。

今回、3月定例会議を経て、会派要望が反映された予算項目(一部抜粋)は右記の通りです。詳細はQRコードからご覧ください。



1. 活気あふれる、ずっと住み続けたい街			
(1)中心市街地の活性化			
福島駅周辺まちづくり検討推進	4,630		
福島駅東口地区市街地再開発支援	1,536,730		
街なか出店家賃補助	85,091		
新規出店のための内外装工事等補助	30,000		
街なか店舗等整備支援	10,000		
商店街等活性化イベント支援	36,000		
街なかテーマパーク開催	10,000		
ほこみち社会実験	5,000		
ももりんシェアサイクルの運営	17,671		
パークアンドライドの運営	4,000		
(2)災害への万全な体制づくり			
避難行動要支援者名簿の更新・個別避難支援プランの作成	52,337		
地区防災計画策定の推進	4,673		
(3)ふくしま圏中枢都市圏域内の連携強化			
連携中枢都市圏の形成による広域的発展	647,228		
(4)持続する農業			
ふくしまの農産物魅力アップ	4,543		
「ゆうやけベリー」ブランド化推進	6,000		
スイーツ・プレミアム販売促進	4,000		
福島型給食の推進	562,935		
米粉等利用拡大支援	1,230		
福島駅前軽トラ市開催	6,000		
地域でつくる農業振興基金事業【提案枠】	51,500		
スマート農業実装支援	15,000		
脱炭素設備導入支援	4,800		
脱炭素・循環型農業支援	17,882		
気候変動適応型農業支援	10,000		
農業施設の改修	43,500		
新規就農支援パッケージ	174,415		
農業経営の安定化支援	6,837		
森林経営管理の推進	51,490		
ふくしま森林再生事業	143,080		
森林環境学習の推進	8,157		
鳥獣被害対策強化	61,339		
ツキノワグマ被害特別対策	5,158		
(5)県都にふさわしい商工業の振興			
次世代後継者育成「夢創塾」	990		
若年者就職支援	408		
(6)温室効果ガスの削減の推進			
中小企業ゼロカーボン資金融資	410,500		
再生可能エネルギー(小水力)導入促進	500		
農家の脱炭素設備導入支援(再掲)	4,800		
脱炭素・循環型農業支援(再掲)	17,882		
脱炭素住宅整備促進	37,300		
脱炭素生活スタイル普及啓発	1,000		
水素活用の普及促進	1,600		
(7)新たな視点による観光の展開			
四季の里整備【一部12月補正で計上済】	45,321		
温泉地活性化推進	15,000		
福島三名湯ブランディング	6,000		
2. 出会い、結婚、子育て 若い世代に選ばれるまち			
(1)定住するなら福島市へ 夢が描けるまちづくり			
出会いの場創出	4,713		
結婚新生活支援	74,040		
わかもの住まい支援	1,200		
空家リフォーム支援	25,300		
(2)教育環境の充実			
福島型オンライン授業	394,669		
いじめ・不登校対策推進	8,501		
不登校児童生徒の学校復帰支援	12,405		
こども家庭センター(子ども家庭総合支援拠点)の運営	21,482		
スクールソーシャルワーカーの派遣	8,898		
学校施設リフレッシュ	329,520		
部活動指導体制整備	7,961		
(3)子どもを守るための福祉体制の拡充			
障がい者相談支援センターの開設	60,483		
こども発達支援センターの運営	53,286		
医療的ケア児受入保育	791		
子育て世帯・ヤングケアラー訪問支援	1,867		
(仮称)もりあい認定こども園整備	100,900		
心のケア推進	19,146		
特別支援教育の推進	226,607		
(4)引きこもりからの自立支援			
ユースプレイス自立支援	4,000		
3. 高齢者や障がい者にも優しい福祉のまち			
(1)高齢者が出かけたい元気高齢者まちづくり			
高齢者の公共交通利用助成	311,646		
(2)障がい者の自立を目指す支援態勢			
障がい者相談支援センターの開設(再掲)	60,483		
障がい福祉サービスの充実	5,556,993		
4. 住み心地のいい共創都市			
(1)文化レベルの向上			
民家園の活用推進	60,660		
「古閑裕而記念音楽祭2024」の開催	5,000		
文化振興計画の策定	492		
じょーもびあ宮畑の活用推進	7,705		
(2)豊かな自然、魅力ある歴史、文化を未来へ			
文化財保存活用地域計画の策定	5,330		
文化財の保護・保存	7,959		
和田遺跡整備基本計画の策定	184		
都市間交流の推進	990		
(3)共創の推進と市行政機能の一層の充実			
こくりナビプロジェクト	267		
デジタル人材バンクの運用	500		
3Dデジタル都市計画情報の構築	54,820		
スマート農業実装支援(再掲)	15,000		
マイナンバーカード取得促進	140,874		
LINEの活用推進	5,261		
母子保健スマート窓口推進	4,276		
(仮称)市民センター等予約システムの導入	33,496		
高齢者デジタル活用サポート	10,000		
総合防災情報システム運用	23,561		
電子入札システムの運用	8,705		
文書管理システムの運用	24,245		
文書生成AIの導入	924		
ICTによる業務効率化	3,812		
BPR手法を活用した業務改革・改善の推進	5,000		
DX人材の育成	1,200		
学校図書館のICT化	26,958		
電子図書館運用	5,000		
公民連携の推進	3,500		
道路の地域安全緊急対策	200,000		
橋梁補修・耐震化	544,600		
橋梁点検	60,000		

(単位 千円)

視察
長崎市長

長崎駅周辺土地区画整理事業

令和4年9月23日の西九州新幹線の開業から1周年を迎え、長崎駅周辺再整備事業として、長崎市主体の長崎駅周辺土地区画整理事業、長崎県主体のJR長崎本線連続立体交差事業、国主体の九州新幹線西九州ルート(武雄温泉～長崎)が相互に関連しながら長崎の陸の玄関口としての再整備が進められており、バリアフリー動線も確保されています。

駅周辺土地区画整理事業については、昨今の資材価格高騰により当初の154億円から173億円に膨らんでいます。

公共事業のデザインについては、景観デザインという専門的な観点からの監修を行う景観専門監を行政組織の中に設置し、行政で組織する会議体でデザイン調整が行われ整備されているとの説明があり、本市においてもその重要性を提言してまいります。



長崎駅周辺

視察
大分県大分市

末広町一丁目地区第一種市街地再開発事業について

事業区域は、JR大分駅北側の駅寄りのA街区と商店街寄りのB街区に分かれた約0.5ヘクタールの区域です。

当初は、A街区が地上28階・地下1階で、1階から3階に商業施設等・分譲住宅(5階～28階)で約217戸等、B街区が地上18階で、商業施設(1階・高齢者分譲住宅(2階～18階)約91戸等でした。その後、資材価格高騰に対する事業計画の変更を行い、令和4年12月にA街区は地上28階から27階に、B街区は地上18階から14階に、竣工も2026年4月から2027年3月に変更され、新たに国の補助金を活用したものの、それでも総事業費は当初予定の約152億円から約170億円となり、規模を変更しても、保留床処分費も上げざるを得ない状況でした。今年3月には2回目の事業計画が変更されました。



当初の完成予想イメージパース

視察
大分県大分市

観光の現状とインバウンドの実態について

JR由布駅のホームには外国人観光客と思われる団体100人以上があり、九州地方でのインバウンドの凄まじさを感じました。説明では、コロナ禍前に440万人いた観光客は約7割に減少しており、内、約70万人がインバウンド客とのこと。ただ、市として積極的にその誘致策は取っておらず、逆におバーツーリズムの問題が顕在化しており、外国語表記看板設置などの対策が必要になっていることが示されました。由布温泉郷では国民保養地温泉としての登録や街並み環境整備を通して、最も住みよいまちこそが最も優れた観光地であるという信念で街づくりが行われており、誘客のポイントであるということが印象的でした。本市では土湯温泉、飯坂温泉で街並み整備を行っており、方針づくりの重要性を本市にも提言してまいります。



ゆふいんラックホール

所属議員一覧

会長
真田 広志



● 経済民生常任委員
● 複合市民施設に関する調査特別委員

松浪町1番15号
TEL 523-13201

副会長
二階堂 武文



● 副議長
● 総務常任委員

町庭坂字内町51番地の2
TEL 591-11138
http://nikaidou.net/

副会長
鈴木 正実



● 総務常任委員

飯坂町平野字林添1番地の101
TEL 543-1218

顧問
穴戸 一照



● 文教福祉常任委員

荒井字上町裏10番地
TEL 593-11035

相談役
尾形 武



● 建設水道常任委員
● 監査委員

松川町浅川字大古内9番地
TEL 548-7683

幹事長
川又 康彦



● 文教福祉常任委員
● 議会運営委員
● 複合市民施設に関する調査特別委員
● 議員定数に関する調査特別委員

飯坂町字湯町25番地
TEL 090-2841-1529
http://kawanata-yasuniko.com/

政調会長
斎藤 正臣



● 建設水道常任委員
● 議会運営副委員長
● 議員定数に関する調査特別副委員長

渡利字七社宮5番地の1
ヴェルデード七社宮301
TEL 521-2342

総務会長
根本 雅昭



● 経済民生常任委員長
● 複合市民施設に関する調査特別委員

渡利字七社宮30番地の1
TEL 05092-6801
https://m-nemoto.com/

総務会副会長
菅原 美智子



● 総務常任委員
● 議会運営委員

TEL 553-0711
https://mchikopro.jp/